

教育委員会会議の議事録（平成29年9月定例）

◆ 日 時 平成29年9月26日（火）午後6時から午後8時1分まで

◆ 場 所 上杉分庁舎 教育局第一会議室

◆ 出席委員

教育長	大越 裕光
教育長職務代理者	吉田 利弘
委員	今野 克二
委員	齋藤 道子
委員	加藤 道代
委員	花輪 公雄
委員	中村 尚子

◆ 次 第

1 開 会

2 議事録承認

3 議事録署名委員の指名

4 報 告 事 項

- (1) 平成29年度仙台市標準学力検査、生活・学習状況調査の分析結果と改善方策について
- (2) 平成29年度全国学力・学習状況調査結果の概要について
- (3) 平成28年度仙台市いじめ実態把握調査結果について
- (4) いじめ定期報告状況について
- (5) 教育委員会委員の任命について

5 付 議 事 項

第27号議案 臨時代理に関する件について

（市議会の議決を経るべき事案に係る市長への意見の申出について
〔工事請負契約の締結に関する件〕）

第28号議案 臨時代理に関する件について（教育委員会事務分掌規則の改正について）

第29号議案 臨時代理に関する件について（職員の人事に関する事項について）

第30号議案 臨時代理に関する件について（職員の人事に関する事項について）

6 閉 会

◆ 会議の概要

- 1 開 会 午後6時
- 2 議 事 録 承 認 7月定例会、8月定例会、9月臨時会
- 3 議事録署名委員の指名 加藤委員

4 報 告 事 項

(1) 平成29年度仙台市標準学力検査、生活・学習状況調査の分析結果と改善方策について

(学びの連携推進室長 報告)

(資料にもとづき報告)

花輪委員 目標値はどのように策定されているのか。
学びの連携推進室長 プレテストを行い、それによってその問題の難易度に応じた目標値を設定している。それにより妥当性等を高め、変動がないような形になるように努力している。

花輪委員 小学校の4年生以降中学2年生まですべて、理科が目標値に対してマイナスになっている。昨年度も同じような傾向があったが、このように数学年にわたって理科が低いというのは何か系統的なものに思えるが、その辺はどう分析されているか。
学びの連携推進室長 ご指摘のように、事務局のほうでも、理科と算数については課題があるように認識している。また、「表現」についても毎年課題になっており、この部分については丁寧に指導改善等の検討を加えながら、各学校に通知してまいりたいと考えている。

花輪委員 全体的に非常に丁寧に分析されていて、それに対してすべて方策を考えていることに感心した。

齋藤委員 全体的に素晴らしい結果が出ていて、これは先生方のご努力が一番だと感じる。確かな学力研修委員会の研修を毎年拝見させていただいているが、子供たちが活発に学び、先生方も子供たちを一生懸命捉えていらっしゃることを感じる。今度の10月、11月も楽しみに拝見させていただきたいと思っている。

指導改善の方策など非常に事細かに分析なさっていて素晴らしいと思うが、気になったのは、例えば資料3の1ページ目の小学校3年の国語の「指導改善の方策」として、「相手の反応を見ながら必要な言葉や文を補って話をすることの大切さを理解させることが必要」「指導に当たっては、限られた時間内に内容をまとめさせたり、条件を提示して、それに応じた文章を書かせたりする」とあり、これは非常に高度だなと感じた。高みを目指しているのはよく分かるが、同時に、理解できない子供への気持ちも忘れないで、そのあたりにも留意していただきたいと思った。

それから、言葉の学習について、どの学年も少し考えていくべきだというところがあったが、私はやはり国語辞典をもう一度見直すこともとても大事なのではないかと感じた。

もう一つ、生活・学習状況調査で、特に仙台市教育委員会でアエルにフロアを持っているスチューデントシティやファイナンスパーク、こちらが各学校で生かされている機会が多くなったように思う。これからも仙台の特別な部分という形で見ていったほうが良いと思った。

同時に、情報モラル教育などを仙台市のPTA協議会と連携して行っているとい

うことで、保護者の方と子供たちがよく向き合って話をしてくださっていると感じた。これから先も親と子の働きかけをPTAでもぜひ重視して見ていていただきたい。

中 村 委 員 とても細部にわたって分析されていて、読む者もしっかりと分かるような文章になっており、素晴らしいものだなと思った。

国語についてだが、やはり国語はすべての教科の基本だと思うので、ここがしっかりできないと算数でも数学でも社会でも読み取るのは難しくなると思うので、ここにぜひとも力を入れていただきたいと思った。

生活・学習状況調査のところでは、これらの資料については市教委のホームページやリーフレットなどで保護者に投げ掛けをしていくということで、それはすごくありがたいと思う。ただ、リーフレットが渡されるだけだと、忙しい保護者はそのままになってしまうので、この下のほうに書いてある「ご家庭では」というようなところに特化した何かを1枚入れてほしい。保護者は生活・学習調査のことを気にしていると思うので、より目に留まりやすくなると思う。

それから、自分の娘のことだが、ファイナンスパークに行ってから、買い物をするにしても何にしてもやはり意識が変わったように思っている。家庭の事情を聞いてきたり、こういうものはお金を使い過ぎだからやめようと言ったり、それは娘の友達の間でもそういう会話が出ている。これはとても意義があると思うので、今後も続けていただきたいと思う。

ただ、このファイナンスパークには保護者も結構な人数がお手伝いで入るのだが、働いていらっしゃる方も多いので、そのあたりの手だてが何かあればいいなと思っている。

学びの連携推進室長 職場体験学習などのキャリア教育、仙台自分づくり教育と呼んでいるが、スチューデントシティやファイナンスパークによって学ぶ意識などを高めるという実践が進んでいる。スチューデントシティもファイナンスパークも、企業のボランティアの方々のほかにも保護者ボランティアの協力をいただいている。そういう点で学校に負担をお願いしている部分があるが、ボランティアの確保が難しい場合は市教委の登録ボランティア制度を利用し、不足分を補うような形にしている。

また、齋藤委員からもお話のあった、できない子供の指導というところは、十分に気を付けて丁寧にやっていきたいと思っている。

吉 田 委 員 次の報告事項である全国学力調査の結果を見ても、子供たちの頑張り、それを支える教員の支援体制、そしてまたそれを支える事務局の努力は、本当に評価できることと思っている。今回の指導改善の方策の内容も大変充実したものになっている。そうすると、そのフィードバックのあり方が重要になる。この検査の主体は仙台市、そして国というように違うわけだが、それを受ける、いわゆる対象となる子供たちは同じである。そうした場合のフィードバックのあり方として、標準学力検査の結果と全国学力調査の結果との関連性をどのように考えているのか。特に全国学力調査の対象となっている小学校6年生、中学校3年生は、両方の検査を受けているわけである。その結果についてどのような関連性を持たせたフィードバックの仕方をしているか、教えていただきたい。

学びの連携推進室長 仙台市の学力検査は、小学校1・2年生を除くすべての学年で小学校4教科、中学校5教科で実施している。より多くの学年、教科で一人一人の学力をきめ細かく

把握して指導に生かすことを目的としており、正答率が低かった部分については、次年度で改善が図られているかどうかを詳しく分析して検証するという、いわゆるPDCAサイクルをやっているところである。

全国学力・学習状況調査は、本市の児童生徒の学力の状況を全国的な比較の中で把握することは、やはり教育の質の維持向上を図るために大事なことであり、仙台市標準学力検査の経年変化の子供たちの分析とともに、全国学力・学習状況調査によって相対的な比較も実施して、併せて仙台市の子供たちの学力を高めることに有効に活用しているところである。

吉田委員 フィードバックの仕方について、標準学力検査の結果についてフィードバックし、その後、しばらく時期がずれて全国学力調査の結果を別枠でまたフィードバックしていくという方法なのか、それとも、二つの結果の課題や成果の共通項への検討を加えた形で学校へフィードバックするのか、というあたりを教えていただきたい。

学びの連携推進室長 特に今年の小学校6年生の算数については、結果が出ているとおり、仙台市の標準学力検査の中でも少し課題があつて、それがやはり全国の中でも明らかになって、同じような傾向が見られた。各学校に対してもこの部分に課題があつたということ強く働きかけて、共通理解のもとで改善に当たるということを考えている。

加藤委員 全体的に良好で、子供たちがよく頑張ってくれているのだなということが分かる。一方で、国語を見ると、読み取りと表現は良いが、相手を意識して相手に対して説明をしていくとか、与えられた情報を十分考えながら他者との関係の中で生かしていく、あるいは、話し手の意図を考えながら話し合いを進めていくといったところが課題とされている。これらのことは個人内の学習、つまり個人とテキストとの関係の学習ではなく、他者との人間関係の中での学びの姿ではないかと思う。こういったあたりに指導改善の方策が比較的多く割かれていたという印象があつたので、やはりこの辺は学力検査というテストで分かるだけではなく、現場の中で子供たちの関係性を見ている教員がよく理解し、その場で指導していけることかと思う。また、昨今のアクティブ・ラーニングなどのような方法論の中で生かされてくることかと思うので、テキストと自分の個人の中の学びを超えた他者との間の学びが意識されていくと良いかと思う。

学びの連携推進室長 アクティブ・ラーニングなど主体的・対話的で深い学びの大切さが言われている。しかし、それを実現するためには、今、ご指摘にあったように、学級の中の間人間関係がまず基本となる。こういった指導改善方策を効果的に運営していくためには、人間関係づくり、学級づくりも同時に高めていく必要があると感じている。その辺についても各学校に対して強く働き掛けてまいりたいと考えている。

今野委員 気になるのが、スマホ使用の学習への影響についてである。仙台市では以前から言われているところだが、特に最近、勉強中に使っていることがかなり大きな影響があるという結果が出ている。

例えば高校3年生の方にクラスで何割がスマホを持っているかと言うと、今は持っていない人が一人いるかないかというところだと言う。そこまでスマホを使う生徒が増えている。もはや、スマホなしにはなかなかコミュニケーションもとれなくなってきたおり、友達関係などを考えると「使ってはだめだ」とはなかなか言えないような時代になってきていると思う。

そういう中で、勉強時間中にもスマホを使っているという人が増えていて、毎年

このまま増えていくと大変大きな影響が出るかなと思っている。もちろんいろいろな対策をお考えのようだが、何年後かにはかなり大きな影響が出る可能性があるので、そのあたりの指導をよろしくお願ひしたい。

学びの連携推進室長

事務局でも、この数字を見て非常に危機感を抱いている。今年の8月9日に学習意欲の科学的研究フォーラムを開き、川島先生を講師に迎え、まさに通信アプリを使った問題点について中学生と川島先生がディスカッションをしたり、あるいはスマホ等の使い方について悩んでいる保護者と川島先生がディスカッションをしたりしながら、みんなとともに考えていこうということをやった。今後とも機会あるたびに保護者に対してもこういったところについて一緒に考えていこうということを進めてまいりたいと考えている。

教 育 長

先ほど花輪委員から、理科に関して押しなべて目標値に対しての正答率が下回っている傾向があるというお話があったが、これに関して、例えば基本的な小学校の算数で見ると、4年生までは何とか目標値に達するかというあたりになっている。4年生のテストというのは、その前までの勉強の復習なので、要は3年生の勉強までは何とかできているが、4年生、5年生になると勉強が難しくなり、つまずきが出てくる。それで5年生、6年生のところでは目標値を下回るようになる。やはり、このあたりが課題でもあるのだろうと感じたところである。

国語の達成率がいずれの学年でも良いところは救いだと思う。どの教科であっても、国語の理解力からスタートするというのは共通している部分だと思うので、そういうところで今後より焦点を絞った対策というのもさらに進めていくことが可能だろう。事務局においてはビッグデータであるこの標準学力検査を有効に使って、効率的な指導方法を学校現場に提供していくことも検討していただければと思う。

(2) 平成29年度全国学力・学習状況調査結果の概要について

(学びの連携推進室長 報告)

(資料にもとづき報告)

齋 藤 委 員

先ほどの仙台市の検査と同じように、先生方が一生懸命取り組んでくださっているということと、子供たちがそれに一生懸命ついていこうとしていること、それと同時に、予習・復習のあたりがきちんと増加しているというあたりからも、家庭のご協力というところをとっても感じる。子供たちがもっともっと、自分たちが役に立つ人間である、生きていることによっていろいろなことで人のためになっているのだという自己肯定感を、保護者の方たちと一緒に話し合っ、学校とともに育んでいければと思う。

特に、小学校も中学校も地域に目を向けているということ自体が非常にありがたいことだと思う。私は地域から出ている委員として、少子高齢化の時代の地域を支えてくれるのは中学生であると思っているので、14ページの中学生の質問45番「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」で、参加したことがある割合が全国平均を大きく上回り、さらに昨年度よりも増えていることに、地域に生きる者として非常に心強く思った。

吉 田 委 員

先ほどお話ししたフィードバックの関係だが、去年のこの報告事項のときにも申し上げたが、小学校の結果と中学校の結果の違いに対する対応策ということで、小学校での指導形態と中学校での指導形態の違いを踏まえたフィードバックのあり

方があってもいいのではないか。いわゆる評価する内容が1年前に学習したことに対するもので、それをフィードバックするというタイムラグの問題がある。もう一つは、いわゆる内容教科とそうでない教科、それらを踏まえてフィードバックしていくわけである。小学校の担任の先生は毎年代わることがあるが、中学校の場合は教科担任としてある一定の期間、同じ教科で関わることができる。それに対するフィードバックのあり方を一つ考えていかなければならないと思う。

今回、残念ながら小学校6年生の算数で少し課題が多かった。私が教育委員になった当時、この子供たちは4年生だったが、同一集団としてずっとこの傾向が続いている。中学校に入って、算数から数学になっても同じことが続くのではないかと危惧している。そうしたときのフィードバックの一つのあり方として、この結果を小学校だけの枠で留めるのではなく、中学校の教科担任の先生に知らせることも方策かと思う。それこそが、器だけが小中一貫というのではなく、真の小中一貫教育に結びつくのかなと考える。全体を俯瞰できる教育委員会だから、そういうフィードバックができると思うので、その辺も一つ考慮していただければと思う。これがまず一つ目である。

次に、「3 調査結果の概要」の(3)のところで、教員との関わりに関する項目の内容が出ている。大変マイナス面があったということで、その解決策として、「向き合う時間の確保が十分に取れていない現状がうかがえる」と、くくられているが、私は時間でくくってしまうのは危険かと思う。時間は本当に限られたものなので、むしろ向き合い方ではないか。向き合う時間でなく向き合い方。その辺も視野に入れていただきたい。例えば、小学校でいえば質問事項の38番「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」と、39番「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくださいか」は、ややマイナスになっている。ところが、56番「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか」では、たくさん発表する機会を与えられていることが分かる。でも、子供たちは教員との関わりでマイナスというイメージを持っている。いわゆる評価ということで、ここに何かヒントがあるかと思う。そのようなことも含めながら、教員との関わりを時間だけでなく、関わり方、向き合い方ということも一つ視野に入れていただければと思う。

学びの連携推進室長

まず、フィードバックの点だが、小中連携の中で、生活・学習状況調査や全国学力・学習状況調査の結果を小中共同で分析する学校も出てきた。例えば小学校の算数の先生と中学校の数学科の先生がお互いに調査の結果を分析して、この中学校の生徒たちは、この部分の正答率が落ちているということと共に理解して、小学校のこの単元を少し手厚く指導すると良いだろうなどと意見交換し、カリキュラムを改善をしていくと。そうすると小学校での理解度のでこぼこ状態が改善され、良い形で中学校につなげていっている。ただ、これはまだ取り組んでいる学校が少ないので、こういった取り組みについて広げていきながら学力の向上につなげていきたいと思っている。

また、ご指摘のとおりPDCAサイクルが定着しているところではあるが、やはり小学校と中学校を比べると、中学校は教科担任ということで自分の指導に責任を持って指導改善をしているところが見られるので、そういったところを小学校の教員も学んでいながら、自分の指導の振り返りに生かしていけるよう、さらに努力

してまいりたいと思っている。

教員との関わりについては、向き合う時間の確保も考えながら、その中でも向き合い方を考えていくというご助言を頂いたので、そういった部分も考えながらより良い方向を考えてまいりたいと思っている。

花 輪 委 員 学力テストも学習状況調査も、非常に多くの項目で本市の施策が功を奏しているのだろうと思うが、先ほどビッグデータという言葉も出ていたが、この調査結果は、それを裏付けるような資料になっていると思う。

生活調査で、今年度と昨年度の全国との間の比較をしているが、これをもう少し過去まで遡って動向を見ると、仙台市で何を期待してどういう施策をしたのか、お金で言えばどういう投資をしたのか、そういったものがここの結果に表われているのではないかと思う。そういった意味で、こういうところに力を入れると確かにここが伸びていくとか、そういうことを示しているデータになっているのではないかという気がする。先ほど齋藤委員からもお話があったが、地域との関係のところは全国に比べるとかなり高く、非常に良い傾向だと思う。そうなる理由というか原因があると思う。そういう中に地域と中学校、小学校との関わり合いをどんどん進めるような施策を、実は仙台市はしていたのではないかと。そういったところも分かる資料になっているのではないかと思うので、比較の対象をもう少し過去までさかのぼって、どういう傾向で今の状態があらわれているのかを分析していただくと有益な情報を得られるのではないかと思う。そこをぜひお願いしたい。

学びの連携推進室長 ご指摘にあったように、この仙台市標準学力検査や全国学力調査の中から本教育委員会で取り組んでいる様々な教育施策の成果指標をつくり、これをもとにして施策の検証等にも生かしている。先ほどあった地域との関わりというところでは、本市が取り組んでいる学校支援地域本部の取り組みが非常に大きい成果となって表われているのではないかと考えている。こういったデータを成果指標としても生かしながら、今後、施策の検証等にも生かしてまいりたいと考えている。

教 育 長 先ほどの標準学力検査とかなり重なる部分があるので、全国学力のこの結果に対して、何か意見があればお願いしたい。

今 野 委 員 時系列で分かるといいなと思っているのだが、資料4の17番「学習塾（家庭教師を含む）で勉強をしていますか」というのが全国より5%程度低い。単純に、学習塾に行っている児童生徒は成績が良いのかなと思っていたが、もしかすると予習復習をしている数字が全国より10%以上高いので、これで十分にカバーできていて、それが数字につながっているのかと感じた。これだけの有意差が出るほど、仙台市ではこの予習復習に昔から取り組んでいたのか。こういう取り組みが成果に結びついたということがあれば、それも教えていただきたい。

学びの連携推進室長 学習塾での学習について仙台市は全国よりも低い状況であり、ご指摘のあった毎日の予習や復習に力を入れている状況が、学力の結果に反映されていると期待している。一つの要因として小中連携というところもあり、これは平成23年度から取り組んでいたものであり、モデル事業等もやっていた。この成果の一つとして、小学校・中学校9年間で家庭学習の手引なども作りながら、目安となる家庭学習の時間や、あるいは具体的にこんなことをやればよいというアドバイスも加えながら取り組んでおり、この地道な取り組みが予習復習の時間が増えたことにつながっているものと認識している。

- 教 育 長 家庭学習ノートがあるが、あれは何年生からだったか。
- 学びの連携推進室長 本市の特徴として、小学校3年生に算数、小学校5年生に国語の家庭学習ノートを配付して、親子で家庭学習に取り組むということを進めてきた。平成19年からの取り組みで、この成果の一つとして、家庭学習に取り組む習慣が身につけているものと認識している。
- 教 育 長 予習復習の定着率の高さの一部には、そういう取り組みが反映されているのだろうと思う。
- 中 村 委 員 実際に家庭学習ノートに取り組んだ者としてだが、学校からのそういった提案を受け、時間がないながらも親もちゃんと子供と向き合っ取り組んだという部分は確かにあり、特に小学校のうち予習復習の習慣をつけられたということはあったと思う。中学校になると、周りで塾に行き出す子がとても多くなるので、学習塾で予習復習もきっちりやるということが起こっているのかなという感じがしている。そういったことを小学校から地道にやっていただけたことによって、これだけの成果が、ある一部には習慣として子供たちの中に根づいたものになっているのではないかというのが実感である。
- 教 育 長 全国学力調査というと比較論のような話になってしまいがちだが、私どもの標準学力検査では、基本的な学力の定着が目標に達しているかどうかを大事なポイントとしている、その結果として、全国学力調査なりのテストに結果に表われてくるわけである。先ほどの議論につながっていくが、標準学力検査で習慣化することで学力の定着を図り、かつ、生活習慣等のアンケートでも見えるように、児童生徒が自己を肯定して、社会に対して自分はどういう大人になっていくのか、働いていくのかということを見つめていただくのが基本だと思う。私どももあまり数字の結果に右往左往する必要はないと思う。まず、きっちり分析をしながら、地道に改善に取り組んでいくことが大事だと実感している。

(3) 平成28年度仙台市いじめ実態把握調査結果について

(4) いじめ定期報告状況について

(教育相談課長 報告)

(3) (4) について一括報告

[(3) について資料にもとづき報告]

教育相談課長 (4) いじめの定期報告状況について(資料なし)であるが、今年度からすべてのいじめ事案について、集計表による報告を6月、9月、12月、3月の年4回実施することとしている。内容は、いじめ事案の概要のほか、学校いじめ防止等対策委員会で情報共有を行った日や、保護者連絡を行った日、解消状況等についても併せて報告する様式となっている。学校と教育委員会との情報共有や必要な連携に十分に生かすとともに、学校においても保護者連絡や対応の状況を組織として確実に把握するなど生かしてほしいと考えている。

1回目となった6月については、小学校からは2,500件、中学校からは600件、高校・特別支援学校・中等教育学校からは4件、計3,104件のいじめ事案が報告された。心配される事案等については、電話や学校訪問で経過や状況も確認している。今後は6月の報告に、調査を累積していくことにより解消状況を確認するとともに、繰り返し名前の挙がる子供や配慮を要する子供が継続していじめの被害に遭って

いないかなど、学校と情報を共有しながら、ケース対応にしっかりと生かしていきたいと考えている。

吉田委員 1 ページの実態調査の結果、認知件数のところだが、やはりいじめを絶対起こさない、なくすという姿勢を持つためにも、早期対応が非常に大切なことかと思っ
ている。小学1年生をはじめ、小学校中学年ごろまでは大変多い認知件数となっ
ているが、これこそが逆に大切なことかと思っっている。これらは多分に子供たちの発達
段階における特性、いわゆる自己主張のし合いの齟齬から、それをいじめと認知す
る可能性が十分ある。だから、それはそれなのだとするのではなく、実はその後、
小学校の高学年とか中学校とか高校で発生しているいじめの中に内在している可
能性があるという受け止めをしてもいいのかなと思っっている。したがって、これら
一つ一つの実態・内容をつまびらかにすることが大切かと思っ。

ただ、そうなる就非常に大変だということもある。実際、今回、事務局の働きか
けで、夏休み前、または夏休み中になってしまったかと思っるが、保護者、児童生徒、
担任による話し合いが一人一人のケースに応じてなされた。保護者の声をちょっと
耳にしたのだが、やはり「そういう場面があつて良かった」「心配していたがす
でに先生は対策を講じてくれた」「先生によく分かつてもらえた」「誤解だつた」
などという、まさに曖昧だつたものが明らかになつた良い機会だつたという感想を
聞いた。これは今回だけの事業なのかどうかということもお聞きしたいのだが、や
はりこのように一つ一つに対処していくということをお後も続けていただきたい
と思っっている。

教育相談課長 発達段階に応じた丁寧な対応は学年を問わず非常に重要である。また、今お話の
あつた保護者との情報共有・連携も、信頼関係を構築しながらスムーズな対応をし
ていく上で非常に大事であり、今回、保護者と教員との面談を設定したことも大変
意義があると思っっている。学校の計画で何回かの面談は実施しているが、やはり夏
休みの前後などポイントを絞つたところでの相談は今後も継続していく必要があ
ると考えている。

吉田委員 継続すべきだと私も思っるが、過密な学校の業務の中で新しいことをする場合、
何かほかのものを削除することも考へてもらわなければならないのかなと思っる。そ
れは学校判断でも良いのだが、学校は良いことだと思っると何でも取り入れてしま
つて飽和状態になつてしまう。だから、そういうところは教育委員会から適切なア
ドバイスをしていただければ助かると思っる。

次長 教育相談課長からも話があつた夏休み前後の面談について、吉田委員から保護者
の反応を紹介いただいたが、教員側からもいろいろ話を聞いている。確かに始める
前は、「本当に時間がない」「とても大変なところでどうやっていくんだ」という
様々な話があつた。しかし、実施後に先生方の話を聞くと、子供たちと本当に真剣
に話し合うことができ、結果的にやつて良かったと認識されている声が多くあつた。
そういうことから、この面談は来年度以降も進めていくつもりでいたところであ
る。

ただ、ご指摘のとおり、いろいろなことを学校にお願いしている中で、やはり業
務を削つていかなければならないというのは当然ある。まだ検討段階ではあるが、
やはりこの面談を継続するという方向で、学校の努力あるいは教育委員会の努力と
して、各学校の業務で何か削つていけるものがあるかどうか、できるだけ学校の負

聞いて対応するのが大原則になっている。子供が勇気を持って書いてくれた内容は、教員がしっかりと受け止めて子供たちに返してあげることが何より大切だと思っている。こういった取り組みは、アンケートに限らずさまざまな場面で必要かと思うので、今後ともそういったところを教員一人一人がしっかりと努めていく必要があると思っている。

今 野 委 員 前回よりもかなり内容的にもレベル的にもいじめ対策が進んでいると思う。いじめの解消を判断する3カ月間という意味だが、状況にもよると思うが3カ月間はずっと問題ないかどうかを見守るということだと思うが、ちょうど3カ月たった時点で最終確認をするのか、それとも2カ月ぐらいで最終確認をして終わってしまうこともあるのか。というのは、前々から委員の間で、先生方によって「解消」の判断は異なり、「解消」したといっても、本当にいじめが解消したのかどうか疑問であるという意見が多く出ていたと思う。そういう意味で、3カ月の間見守るということであれば、おそらく良い結果につながると期待しているわけである。

私も、先日、ある中学校にお邪魔させていただいて、校長先生を含め4人の先生方とお話し合いをさせていただいた。校長室がいじめ対策室になっており、毎日のようにそういう会議をやっているという。それから、校長先生の一言に私は非常に感激したのだが、花輪委員が話されたように生徒の信頼を得るためにどんな小さないじめであろうがすべて対応すると。それで何としても生徒の皆さんの信頼を勝ち取るのだと。そのことによって、生徒たちは必ずや学校にそれなりの情報をもたらしてくれるのではないかと期待している。信頼関係がなく、「こんなことを先生に言ってもしょうがない」となるのが一番怖いわけで、その信頼を勝ち取るために、先生たちは、毎朝、信号のところに立ち、生徒一人一人の顔色を見ながら声掛けをしているという。何百人もいるので、これだけでも大変な仕事だと思う。

さらに、いじめ対策の会議をしたり、生徒さんと話し合いをしたり、あるいは、いじめたと言われる方の生徒とも話し合いをする。そういう中でいろいろなことがあるとおっしゃっていた。例えば、にらまれたということがあれば、どんな小さなことでも対応するということで、そのにらんだ生徒を呼んで、どうしたのか聞くそうだ。そうすると、にらんだ覚えはないと言う。我々もほかのことで悩んでいたりとその顔がちょっと怒っているように見えて、その時にたまたま目が合ってしまうと、にらんだと思われることもあり得る話で、実際はそういうことだったという。そういうことまで本当に一生懸命取り組んでおられた。校長先生の忙しい時間の中で、毎日そういうことをやっているのは本当に素晴らしいと思う。

いろいろな学校でいろいろなことに取り組んでいるのだと思うが、その中から本当に効果のある素晴らしい取り組みをぜひ見つけていただいて、共有するという方向まで持って行っていただきたい。

教 育 長 「解消」の判断の3カ月というところは、国のほうでの変更なので、少し説明していただけるか。

教育相談課長 昨年度末、文部科学省からいじめの解消について、いじめが止んでから少なくとも3カ月の期間を見て解消と判断するということが新たに示された。ただ、その3カ月の間、何もしないかというところではなく、やはり人間関係の中でいじめにつながるようなものが続いていないかとか、いじめがないにしても本人が辛い思いなどを引きずっていないかなど、やはり経過観察が重要だと思う。そういったところ

は組織で見守っていくことが必要だと考えている。

それから、3カ月経ったから解消したとして、すべて終わりということではなく、そこから引き続き状況については十分理解するように文部科学省のほうでも言っている。我々もそういったところを十分踏まえて対応していきたいと考えている。

もう1点、どんな小さなじめでもしっかりと対応するということところだが、やはりそういった姿勢やスタンスが、「この先生たちはきっと僕たちを守ってくれる」という子供たちの気持ちにつながっていくものだと思う。日頃からどう関わっていくか、その繰り返しが子供に浸透していくと思うし、校長先生のそういった姿勢が職員の意識を高めていき、例えば子供たちの主体的な活動の盛り上がりにもつながっていくのではないかと思う。そういった好事例を仙台市教育委員会でもしっかりと把握しながら、今後も情報発信をしていきたいと考えている。

加藤委員 先生方はいじめに対して一生懸命頑張っていらっしゃるのだが、子供たちはどう見ているのかということ、アンケートの学校のいじめへの取組みについての設問で、例えば中学生は、「あまり思わない」と「思わない」が20%から22%となっており、未然防止の取組もあまりやってくれていないと思っている。また、「あなたの学校では、いじめがあった時、先生方に相談しやすい雰囲気がありますか」という問いには、28%が「あまりない」「ない」と答えている。このあたりは、こういう調査をすれば大体そんなものだろうという想定内と考えていいのか、あるいはやはりこれもゼロにしていく方向で考えなければいけない数字だと捉えるのかということところだと思う。今の議論にもあったように、先生方は本当に身を粉にして一生懸命やっっていらっしゃる。でもそれが中学生からはどう見えているのかという中学生側の視点を大事にしていこうという部分について、この数字をどう捉えていいのか迷うところだと思った。

もう一つは、この質問項目は良いなと思ったのが、いじめをやめた理由という項目だった。「今いじめをしていない人は、なぜやめましたか」という項目があり、そこに選択肢がいくつもあり、そこから選ぶようになっている。この項目はアンケートをすることによって、今まであまり考えたことなかったことに気づかせたり、考えたことがなかつただけではなく、こういうこともあるのだという別の選択肢、別の考え方に気づけたり、あるいは自分の行為を客観的に捉え直す、自分のことを少し高みから見直すというきっかけになるのではないかと思う。そういうことから、このいじめをやめた理由を改めて考えてみるという項目は大変いい項目だと思った。

教育長 このアンケートの結果から、さらに深掘りしていく必要があるかと思う。

教育相談課長 子供たちの学校への評価の部分だが、先ほどご説明したとおり、設問が子供たちにとって答えづらいとか、どう答えて良いか分からないということで、学校から問い合わせがあった。今年度初めて結果が出たということもあり、やはり経年で見っていく必要があるかと思うので、若干修正を加えながら、今後もこういった内容については継続していきたいと考えている。

中村委員 「誰かに相談しましたか」というところで、相談をした子供は77.6%と、中学校などを見ると結構高いが、一方で相談をしなかった子供がいる。その子を取り巻く環境的に相談ができなかったのか、それとも何とか自分で解決の方向に向いていったのか、そこが気になった。こちらの子供のフォローをぜひともお願いしたいと思

う。

それから、「誰に相談しましたか」という点で、担任の先生、家族、友達など、多くの子がどこかに自分の置かれている状況を発信することができるという部分があるのはとても良いことだと思った。できれば家族や先生などに100%近い回答が得られるといいなという気がしている。

もう一つ、「今、相談したいことがありますか」という設問が10番目にあるが、「ある」と答えた子供たちのフォローをしっかりとしていただきたい。先生にその相談があった場合も、親のほうに訴えがあった場合も、しっかりと対応し、学校と保護者が車の両輪のように、子供の置かれた状況を改善できるような形がとれたらと思う。

先ほど加藤委員からもお話しがあったが、設問の「あなたの学校では、いじめがあった時、先生方に相談しやすい雰囲気がありますか」「きちんと対応していると思いますか」というところで、「ある」「少しある」が高い数字になっているが、やはり、「あまりない」「ない」というのがとても気になる。しかしこれは、子供の正直な気持ちが表れているのだと思うが、もしかしたら「少しある」「少し思う」というところが若干グレーなゾーンなのかなという気がするので、「ある」「少しある」が100%になるような方向にぜひとも持って行っていただければと思う。

先ほど今野委員からもあったが、私も自分の地域ではない学校に行ってお話を聞いたときに、やっぱり学校によって取り組みは全然違うと感じた。良い取り組みがあるならば、やはりそれは発信して、皆さんで共通の認識としてこんなことをやっているのだということが分かると良いのかなと思う。ある学校がやっているからといって、他の学校でもできるとはなかなか思わないが、そういったところに近づけるような努力をしていただけたらうれしい。

教育相談課長

相談しなかったという子供たちも結構いるわけだが、やはりここはどんな小さなことでも相談しやすい環境づくりが必要だと思う。アンケートは一つの手法なので、多忙中ではあるが、やはり日頃からの関わりとか、向き合いを先生一人一人が大事にするというところに戻るのではないかなと思う。そういったことをしっかり伝えていきたいと思う。

「今、相談したいことがありますか」という設問への回答についてだが、このアンケートは家庭に持ち帰って基本的には親子で記入する仕組みになっているので、ここは学校と保護者が情報を共有しながら、必要に応じて対応を進めていると認識している。

教 育 長

私からも少しまとめて意見を述べさせていただく。年に1回のこのアンケート調査は、保護者と一緒に回答していただくというのがある意味で仙台の特徴でもあるわけだが、毎年やっていくことでいろいろな今後の取り組みにもつながっていく。また、継続することで傾向をしっかりと捉えることもできるというメリットもある。しかし、自死事案は発生しているし、また、いじめの認知件数が約1万4,000件あるという事実をしっかりと受け止めて解消していく必要があるということは間違いないわけである。国のほうでも、「解消」という概念を初めて示した。私どもも、「解消」の認識をしっかりと変更して、少なくとも3カ月間は見るということで継続し、さらに解消したと思って安心しないこと、油断しないということを考えていく必要があると思う。そして、私どものほうで今年度から3カ月ごとに定期報告を行

うことにしたので、これを組み合わせることで、いじめ対策の網の目を細かくしていきたい。相談できず、非常に深刻に考えている児童生徒もいる可能性がある一方で、そういう児童生徒をとにかく孤立させないで、教員、保護者、地域、そういう周りの大人が見つけてあげる努力を今後も続けていく必要があるかと思う。

今後もまだまだいろいろな改善策を検討していく必要があるかと思うが、今の時点においてこういう結果をまず受け止めて、一步でも二歩でも仙台市内の学校の児童生徒に、いじめに対する意識やいじめの定義をしっかりと定着させて、学校内が楽しくいることのできる場所であるよう、これからも取り組んでいく必要があるかと思う。あらためて私たちはこの結果を受け止めて改善につなげていきたいと思う。また、このいじめの問題は教育委員会の最優先課題、最重要課題なので、委員の皆様からいろいろな場面でまたご意見をいただきたいと思う。

(5) 教育委員会委員の任命について

(総務課長 報告)

総務課長 教育委員の任命について口頭でご報告を申し上げます。

教育委員については、地方公共団体の長が議会の同意を得て任命することとされているが、このたび10月4日をもって任期満了となる今野委員の後任の教育委員について、今月の15日に市長から市議会に提案がなされ、同意をいただいたところである。

新しい委員となられる里村正治さんのご紹介を申し上げます。里村さんは、現在、フィデアホールディングス株式会社という金融機関を子会社に持つ会社の顧問でいらっしゃるのと同時に、国際教養大学の特任教授をしていらっしゃる。また、昨年度まで本市のコンプライアンス推進委員会の委員をお務めいただいた方である。今後、これらのご経験を教育行政に生かしていただけるものと考えているところである。

任期については平成29年10月5日から平成33年10月4日までとなる。

意見等なし

5 付議事項

第27号議案 臨時代理に関する件について（市議会の議決を経るべき事案に係る市長への意見の申出について〔工事請負契約の締結に関する件〕）

(学校施設課長 説明)

意見等なし

原案のとおり決定

第28号議案 臨時代理に関する件について（教育委員会事務分掌規則の改正について）

(人事課長 説明)

意見等なし

原案のとおり決定

第 29 号議案 臨時代理に関する件について（職員の人事に関する事項について）
（職員の人事異動について）

（秘密会）

（人事課長 説明）

原案のとおり決定

第 30 号議案 臨時代理に関する件について（職員の人事に関する事項について）
（職員の懲戒処分について）

（秘密会）

（人事課長 説明）

原案のとおり決定

6 閉 会 午後 8 時 1 分